

I. 病理学問題 以下の問いに、1~5 の記号で答えよ。(各 2 点、計 100 点)

1. 次のうち、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) 病理組織診断は医療行為であるため、医師以外の者は行なってはならない。
- b) 病理解剖は死体解剖保存法に基づいて行なわれる。
- c) Rudolf Virchow は、臓器病理学の概念を確立した。
- d) 病理解剖を行なうには、遺族の同意が必要である。

1) a, b, c 2) b, c, d 3) b, c 4) a, b, d 5) すべて正しい

2. 遺伝子変異について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) ハプロ不全を呈する遺伝子の多くは、(1) 遺伝子量感受性を示す転写因子をコードするもの、(2) 細胞の需要を満たすために大量の遺伝子産物が必要なもののいずれかである。
- b) ミスセンス変異とは、遺伝子産物中のアミノ酸コドンの一つが終止コドンに置き換わるものをいう。
- c) フレームシフト変異は、機能獲得性変異となることが多い。
- d) 減数分裂において相同染色体が対合する際に、高度に類似した DNA 配列を介して、染色体がずれて対合し、分離する際に組換えを起こす現象を不等交差と呼ぶ。

1) a, d 2) b, c 3) a, c, d 4) b, c, d 5) すべて正しい

3. 遺伝病に関連した次の記述について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) ミトコンドリアの機能障害は核遺伝子の変異によっても引き起こされる。
- b) ミトコンドリア遺伝子の変異による疾患では、ATP 依存性の高い組織である脳や筋が侵されることが多い。
- c) 優性阻害効果は通常、複合体を形成するサブユニット・タンパク質に変異が生じた場合に認められる。
- d) 本来、優性形質として発現されるべき変異遺伝子を有していても発症しないことがある。

1) a, b, c 2) c, d 3) b, d 4) b, c, d 5) すべて正しい

4. 遺伝病に関連した次の記述について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) 多因子疾患が患者家系に集積するのは、患者血縁者では疾患の発症に促進的に働く遺伝要因、環境要因を共有する確率が高いからである。
- b) ミトコンドリアの機能異常が関与する疾患としては Prader-Willi 症候群、Angelman 症候群、Beckwith-Wiedemann 症候群などが知られている。
- c) 三塩基リピート病のほとんどは神経系の疾患である。
- d) 三塩基リピート病は表現促進を示す代表的な疾患である。

1) a, b, c 2) a, c, d 3) a, b, d 4) b, c 5) すべて正しい

5. ヒトゲノムについて、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) ヒト細胞の核内の遺伝情報は、24 種類の染色体、すなわち 22 種類の常染色体と 2 種類の性染色体に分割されて保存されている。
- b) ヒトの核ゲノムには約 10 万個の遺伝子が存在する。
- c) ヒトゲノムには数百塩基対から 1,000 塩基対に 1 個の割合で SNP が存在するといわれている。
- d) ヒトゲノムには 2~4 塩基からなる配列が単位となって、それが何回か縦列に反復している配列が認められるが、繰り返し回数は人により異なっていることが多い。このような多型をマイクロサテライト多型という。

1) a, b 2) a, b, d 3) c, d 4) a, c, d 5) すべて正しい

6. 染色体異常について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) 染色体異常は生産児の 0.6~0.7%に認められる。
- b) 奇形症候群では、しばしば染色体の微細欠失・重複が認められる。
- c) 脆弱 X 症候群は、染色体異常により生ずる精神薄弱としては、Down 症候群に次ぐ頻度で認められる。
- d) Down 症候群患者の脳では 35 歳までに老人斑と神経原線維変化が必発するとされており、患者は Alzheimer 病に罹りやすい。

1) a, b 2) a, d 3) b, c 4) a, b, d 5) すべて正しい

7. アミロイドーシスについて、誤った記述の組み合わせはどれか。

- a) アミロイドは重合した α ヘリックス構造をとっている。
- b) 悪性腫瘍に合併することがある。
- c) アミロイドーシスの発症にはタンパク質の折りたたみ障害が関係している。
- d) Alzheimer 病では AA アミロイドが沈着する。

1) a, b, d 2) a, b 3) b, c 4) a, d 5) b, d

8. 脂質代謝障害について、正しい記述の組み合わせはどれか

- a) レプチンは脂肪細胞から分泌されるステロイドホルモンであり、抗肥満作用をもつ。
- b) 脂質蓄積症の多くはエンドソーム酵素の異常による。
- c) Gaucher 病は sphingolipidosis の一つであり、グルコセレブロシダーゼ遺伝子の異常によって惹き起こされる。
- d) II 型の家族性高コレステロール血症では、LDL レセプターが遺伝的に欠損あるいは減少している。

1) a, b 2) b, c 3) c, d 4) a, c 5) a, d

9. 糖質代謝障害について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) II 型糖尿病では、免疫反応による膵島の破壊が認められる。
- b) II 型糖尿病の発症には HLA-D 領域でコードされる遺伝子が関与している。
- c) II 型糖尿病の膵島にはしばしばアミロイドの沈着が認められる。
- d) I 型糖尿病は小児期に発症することが多い。

1) a, b 2) a, c 3) b, c 4) b, d 5) c, d

10. 代謝障害について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) Wilson 病は、肝硬変、大脳基底核の変性病変、Kayser-Fleischer ring などの特徴とする遺伝性疾患であり、銅の異常蓄積を伴う。
- b) 溶血性黄疸では、非抱合型ビリルビンが増加する。
- c) 長期にわたる輸血の反復や鉄剤の連用で全身に高度の鉄の蓄積をみる病態を二次性ヘモクロマトーシスという。
- d) von Gierke 病では、glucose-6-phosphatase が欠損しているため、細胞内に糖原が蓄積する。

1) a, b 2) a, b, d 3) a, c, d 4) c, d 5) すべて正しい

11. 細胞内での分解系について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) プロテアソームによるタンパク質分解はエネルギーを必要とする。
- b) ある種の神経変性疾患の発症にはユビキチン・プロテアソーム依存性タンパク質分解系の破綻が関与している。
- c) オートファゴソーム内のタンパク質はリソソームと融合することによって分解される。
- d) オートファジーは飢餓などの非常時においてのみ認められる現象である。

1) a, b, c 2) a, b 3) b, c 4) c, d 5) すべて正しい

12. 細胞の適応や傷害による形態の変化について、誤った記述の組み合わせはどれか。

- a) 萎縮した組織や細胞は通常元に戻らない。
 - b) 扁平上皮は時に軟骨化生を来す場合がある。
 - c) 異形成は悪性腫瘍の発生母地となる。
 - d) 傷害を受けた細胞では、しばしば混濁変性や空胞変性、脂肪変性などを見る。
- 1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて誤り

13. 細胞傷害の機序について、誤った記述の組み合わせはどれか。

- a) 虚血・低酸素によるミトコンドリアでの酸化リン酸化反応の低下は、解糖系の活性化を招く。
 - b) 活性酸素による脂質の過酸化は細胞膜傷害を誘導する。
 - c) スーパーオキシドディスムターゼは予防的抗酸化物としてスーパーオキシドを過酸化水素へ変換する。
 - d) ウイルス感染細胞の細胞死の多くはウイルス遺伝子産物による宿主自殺遺伝子の活性化が原因である。
- 1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて誤り

14. 細胞死の形態的特徴などについて、誤った記述の組み合わせはどれか。

- a) いずれの形の細胞死でも、核融解を認める。
 - b) 脳は蛋白量が少ないため、脳梗塞では凝固壊死の形態はとらない。
 - c) ガス壊疽では、組織の醃化(石醃化)を起こすのが特徴である。
 - d) アポトーシスに陥った細胞では通常核は濃縮するが、細胞小器官を含め細胞質は腫大化する。
- 1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて誤り

15. アポトーシスについて、誤った記述の組み合わせはどれか。

- a) Bリン酸化により活性化した p53 はミトコンドリアからの Bcl-2 を制御してアポトーシスを誘導する。
 - b) ミトコンドリアでの ATP 産生能の低下は cytochrome C の放出を抑制し、アポトーシスを回避する。
 - c) FAS 受容体への刺激は TNF 受容体への刺激と同様の機構で caspase 系を活性化する場合と NFκB を活性化する場合がある。
 - d) 細胞傷害性 T 細胞 (CTL) から放出される granzyme B は caspase 依存性あるいは非依存性にアポトーシスを誘導する。
- 1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて誤り

16. NK 細胞について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) NK 細胞の表面には、NK 細胞に活性化のシグナルを伝達する活性型レセプターと、それに拮抗して働く抑制型レセプターの 2 種類のレセプターが発現している。
 - b) 正常細胞は MHC クラス I を代表とする抑制リガンドを十分量発現しているため、NK 細胞によって傷害されない。
 - c) 癌化や感染により異常化した細胞では、抑制リガンドの発現低下や活性化リガンドの発現増強により、NK 細胞が活性化され、NK 細胞によって傷害される。
 - d) 癌細胞の中には、活性化リガンドを自ら切断して、NK 細胞からの傷害を免れる機構を有するものがある。
- 1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて正しい

17. 獲得免疫について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) 抗原を貪食・消化したマクロファージや樹状細胞は抗原提示細胞となる。
 - b) 抗原提示細胞は MHC クラス II 分子上に抗原ペプチドを提示する。
 - c) 抗原ペプチドに結合した CD4 陽性 T 細胞は、キラー T 細胞となる。
 - d) 抗原ペプチドに結合した CD4 陽性 T 細胞によって活性化された B 細胞は、幼若化し、抗体を産生するようになる。
- 1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて正しい

18. T細胞の分化について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) 胸腺細胞の多くはCD4分子とCD8分子の両方を発現している。
- b) 自己のMHCに結合しない受容体を持つT細胞は胸腺でアポトーシスに陥る。
- c) 自己抗原を提示したMHCに強く結合する受容体を持つT細胞は胸腺でアポトーシスに陥る。
- d) 末梢で自己免疫反応を抑制する制御性T細胞は胸腺で分化する。

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて正しい

19. ヒト免疫不全ウイルス(HIV)について、誤った記述の組み合わせはどれか。

- a) HIVはT細胞のほかマクロファージにも感染する。
- b) HIVが細胞に感染する際、細胞膜上のCD4分子とともにCXCR4分子またはCCR5分子が必要である。
- c) HIVは感染細胞内で増殖するために様々な宿主分子の働きを利用する。
- d) HIVに感染した細胞は腫瘍化し、悪性リンパ腫となる。

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて誤り

20. 移植について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) 自家移植では免疫反応は起こらない。
- b) 他人から臓器の提供を受ける移植を同種移植という。
- c) ドナー由来の免疫細胞がレシピエントの臓器を攻撃する免疫反応を拒絶反応という。
- d) レシピエントの免疫細胞が移植されたドナーの臓器を攻撃する免疫反応をGVH反応という。

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて正しい

21. II型アレルギー機序が病因として関与している自己免疫疾患はどれか。

- a) 自己免疫性溶血性貧血
- b) 血栓性血小板減少性紫斑病
- c) 特発性血小板減少性紫斑病
- d) Goodpasture症候群

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて正しい

22. 再生医療について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) 再生医療に応用される幹細胞には、胚性幹細胞と組織幹細胞がある。
- b) 胚性幹細胞はすべての種類の細胞への分化が可能な全能性幹細胞と考えられている。
- c) 骨髄移植は組織幹細胞を利用した医療として、白血病などの治療に長い実績がある。
- d) 組織幹細胞は環境に応じて幅広い分化能(可塑性)を有していることがわかってきた。

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて正しい

23. 細胞の老化について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) 正常の体細胞では、細胞分裂の回数によらず、染色体のテロメアの長さは一定に保たれている。
- b) テロメアは染色体の安定性に関与している。
- c) テロメラーゼはテロメアが短くなるのを防ぐ酵素である。
- d) 正常の体細胞ではテロメラーゼが活性化されている。

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて正しい

24. 炎症について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) 炎症局所ではサイトカインやケモカインなどの化学伝達物質の放出が認められる。
- b) 慢性炎症では炎症の持続が長期にわたり、組織のリモデリングを伴うことがある。
- c) 慢性炎症では局所の組織球浸潤が主体で、リンパ球浸潤を伴うことは少ない。
- d) 肉芽腫性炎症はアミロイド沈着を特徴とし、中枢神経系組織に多く見られる。

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて正しい

25. 急性炎症について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) 化膿性炎症は細菌感染による急性炎症など、最も多く見られる型である。
- b) 急性炎症では局所の微小循環の変化に加え、好中球浸潤が認められることが多い。
- c) 膿瘍とは、壊死組織や炎症性滲出物の混合物が組織内に貯留した状態をいう。
- d) 線維素性炎症はフィブリン沈着を特徴とし、胸膜や心外膜等の体腔を形成する膜組織に多く見られる。

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて正しい

26. 組織の再生や修復について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) 創傷治癒の過程では、毛細血管の新生や線維芽細胞の増殖による肉芽組織の形成が見られる。
- b) 創傷治癒の過程や結果は、細胞傷害や細胞外基質骨格の破壊の程度に依存する。
- c) 心筋細胞は再生能力のある細胞で、壊死後に瘢痕組織で置換された後に数年を経て再生する。
- d) 創傷治癒の合併症として不完全な瘢痕形成による拘縮が挙げられる。

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて正しい

27. 川崎病について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) 4歳以下の乳幼児に好発する。
- b) 発熱や眼球結膜の充血、いちご舌、皮疹などの特徴的な臨床所見を呈する。
- c) しばしば半月体形成性糸球体腎炎を呈する。
- d) 死亡に至ることはない。

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて正しい

28. 抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 関連疾患として正しいものはどれか。

- a) Wegener 肉芽腫症
- b) 結節性多発動脈炎
- c) 顕微鏡的多発血管炎
- d) Churg-Strauss 症候群

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて正しい

29. 梗塞後の時間経過と心筋の組織変化について、誤ったものはどれか。

- a) 発症直後～ 横紋の消失
- b) 12時間後～ エオジンに対する染色性の低下
- c) 24時間後～ 好中球の浸潤
- d) 数日後～ マクロファージの浸潤

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて正しい

30. 心筋症について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) 肥大型心筋症の原因として、 β -ミオシン重鎖遺伝子の異常が知られている。
- b) 肥大型心筋症では、病理組織学的に心筋の錯綜配列が認められる。
- c) 肥大型心筋症では、心室が拡張を示すことはない。
- d) 拡張型心筋症では、心筋壁は菲薄化する。

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて正しい

31. 64歳女性 胸部異常陰影を指摘され精査の結果、左上葉切除が施行された。切除標本の肉眼像、組織像を示す（病理学問題カラー写真1）。正しい組み合わせはどれか。
- a) 肺原発腺癌である。
 - b) 肺癌の組織型の中で頻度が最も高い。
 - c) 胸膜陥入がX-pで特徴的である。
 - d) 異所性ホルモン産生を示すことがある。
 - e) リンパ節転移をきたしやすい。
- 1) a, b 2) b, c 3) c, d 4) d, e 5) すべて正しい
32. 64歳男性 労作時呼吸困難を訴え受診した。胸部X-pで下葉の縮小と下肺野主体の異常陰影を指摘された。呼吸困難が増強、酸素分圧の低下を来し死亡した。剖検時の肺の断面を示す（病理学問題カラー写真2）。正しい組み合わせはどれか。
- a) 閉塞性肺疾患に属する。
 - b) 一秒率が減少する。
 - c) 下葉に蜂窩肺をみとめる。
 - d) 病理診断はUIPである。
 - e) 一般に予後良好である。
- 1) a, b 2) b, c 3) c, d 4) d, e 5) すべて正しい
33. 肺感染症の組織像（病理学問題カラー写真3）に関する説明で、正しい組み合わせはどれか。
- a) ふくろうの眼と呼ばれる細胞質内封入体を認める。
 - b) 免疫能の低下が背景にある。
 - c) ウイルスは血中に認められることがある。
 - d) 抗生物質が著効する。
 - e) 気管支肺炎の形をとることが多い。
- 1) a, b 2) b, c 3) c, d 4) d, e 5) a, e
34. 呼吸器疾患について、正しい記述の組み合わせはどれか。
- a) COPDは慢性気管支炎・肺気腫などを含み予後良好である。
 - b) IRDSではサーファクタントの不足が背景にあり経膈分娩に多い。
 - c) 間質性肺炎では酸素・二酸化炭素の拡散能が低下する。
 - d) 結核の診断にクオンティフェロン検査が使われ、結果がツ反より早く得られる。
 - e) ARDSは別名DOAと呼ばれ硝子膜の形成をみとめる。
- 1) a, b 2) b, c 3) c, d 4) d, e 5) すべて正しい
35. アルコール性肝障害について、正しい記述の組み合わせはどれか。
- a) アルコール性肝障害で巨大ミトコンドリアが見られる。
 - b) アルコール性肝障害の線維化の特徴は傍細胞性線維化である。
 - c) Mallory bodyはアルコール性肝障害に必ずしも特異的ではない。
 - d) 飲酒歴のない糖尿病や肥満患者にアルコール性肝障害と同様の肝障害をきたすことが知られ非アルコール性脂肪性肝炎として注目されている。
 - e) アルコール性肝障害が高度になると肝硬変をきたす。
- 1) a, b, c 2) b, c 3) c, d 4) a, e 5) すべて正しい

36. 自己免疫性肝疾患について、正しい記述の組み合わせはどれか。
- a) 原発性胆汁性肝硬変は抗平滑筋抗体が高率に陽性となる。
 - b) 原発性胆汁性肝硬変の初期病変は急性化膿性破壊性胆管炎である。
 - c) 硬化性胆管炎は潰瘍性大腸炎を合併することがある。
 - d) 自己免疫性肝炎の組織学的特徴は著しい門脈域の拡大と著明な形質細胞浸潤である。
 - e) 自己免疫性肝炎は抗ミトコンドリア抗体が高率に陽性となる。
- 1) a, b, c 2) b, c 3) c, d 4) a, e 5) すべて正しい
37. 自己免疫性膵炎について、正しい記述の組み合わせはどれか。
- a) 中年女性に好発する。
 - b) 原発性胆汁性肝硬変症を高頻度に合併する。
 - c) 黄疸をきたすことはめったにない。
 - d) ステロイド治療に抵抗性である。
 - e) IgG4 陽性の形質細胞浸潤を多数認めることがある。
- 1) a, b, c 2) b, c 3) c, d 4) a, e 5) すべて正しい
38. 膵腫瘍について、正しい記述の組み合わせはどれか。
- a) 漿液性嚢胞腫瘍の悪性化はほとんどみられない。
 - b) Solid-pseudopapillary tumor は若年女性に好発し、膵管癌に比較すると予後良好な膵腫瘍である。
 - c) 膵管内乳頭粘液性腫瘍は画像検査で発見しやすく、比較的予後のよい腫瘍である。
 - d) 膵管内乳頭粘液性腫瘍の悪性化はほとんどみられない。
 - e) 機能性島腫瘍の中ではガストリンを産生するものが最も多い。
- 1) a, b, c 2) b, c 3) c, d 4) a, e 5) すべて正しい
39. 糸球体疾患の臨床症候分類と病理所見で、正しい組み合わせはどれか。
- a) ネフローゼ症候群 — 膜性腎症
 - b) 反復性/持続性血尿症候群 — 半月体形成性腎炎
 - c) 慢性腎炎症候群 — IgA 腎症
 - d) 急速進行性糸球体腎炎症候群 — 巣状分節性糸球体硬化症
- 1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) a, c 5) a, d
40. IgA 腎症について、正しい記述の組み合わせはどれか。
- a) 糸球体への IgA 優位の沈着を特徴とする糸球体腎炎である。
 - b) 光顕所見では、内皮細胞の増殖を特徴とする。
 - c) 電顕所見では、メサンギウム領域を主体として、部分的には傍メサンギウム領域や内皮下に高電子密度沈着物を認める。
 - d) 腎移植後の原疾患の再発率は 20—60%程度である。
- 1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) a, c 5) a, d
41. 尿細管間質性腎炎 (TIN) の記載で、正しい記述の組み合わせはどれか。
- a) 急性尿細管間質性腎炎でもっとも多いのは薬剤性間質性腎炎である。
 - b) 慢性の尿細管間質障害の病理学的所見としては、間質の線維化や尿細管基底膜の肥厚がある。
 - c) TINU は、小児、若年者に多く、視神経炎を伴う特発性の TIN である。
 - d) 移植腎においてもっとも多くみられるウイルス性間質性腎炎の病因ウイルスはサイトメガロウイルスである。
- 1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) a, c 5) a, d

42. 腎細胞癌について、誤った記述の組み合わせはどれか。

- a) 断面は一般的に黄色で、硬く変性は乏しいことが多い。
- b) しばしば、のう胞形成を認める。
- c) 淡明細胞癌 (clear cell carcinoma) が最も多い。
- d) リンパ節に転移しやすく、リンパ行性転移が多い。

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) a, c 5) a, d

43. 子宮体癌について、誤った記述の組み合わせはどれか。

- a) 子宮体癌の組織型としては扁平上皮癌が最も多い。
- b) エストロゲンの過剰状態は子宮体癌の原因のひとつとなる。
- c) 子宮内膜症は子宮体癌の前病変であるため、診断確定後早期の手術が考慮される。
- d) 子宮内膜異型増殖症と子宮体癌は全く別の疾患であり、オーバーラップはない。

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて誤り

44. 女性生殖器腫瘍について、誤った記述の組み合わせはどれか。

- a) ヒトパピローマウイルスには、感染により良性の尖圭コンジローマを生じるタイプと、悪性腫瘍（外陰癌や子宮頸癌）を生じるタイプがある。
- b) 子宮頸部扁平上皮の高度異形成は前癌病変であり、治療の対象となる。
- c) 卵巣漿液性腫瘍および粘液性腫瘍は、組織像から良性・境界悪性・悪性に区別される。
- d) クルーケンベルグ腫瘍は、卵巣原発の明細胞腺癌である。

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて誤り

45. 精巣腫瘍について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) セミノーマの two cell pattern とは、腫瘍細胞と腫瘍間質に多量の組織球を認めることを指す。
- b) 定型的セミノーマは精母細胞性セミノーマに比べて高齢者に多い。
- c) 精巣の悪性リンパ腫は高齢者に比較的多い疾患である。
- d) 精巣腫瘍の1つである絨毛癌は、女性生殖器にも発生し、予後の悪い腫瘍である。

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて正しい

46. 前立腺疾患について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) 前立腺肥大症は高齢者男性に見られる良性疾患で、時として PSA の上昇を認めることがある。
- b) 前立腺に発生する悪性腫瘍の多くは腺癌で、Gleason grade による分類が総合的予後判定に役立つ。
- c) 前立腺癌の他臓器転移では、骨転移が最も高頻度である。
- d) 前立腺癌では内分泌療法が治療法の1つとして用いられ、除睾術が施行される症例もある。

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて正しい

47. 内分泌疾患について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) 内分泌臓器の疾患では、ホルモンの分泌異常による全身症状を伴うことがある。
- b) 内分泌臓器に発生する非機能的腺腫とは、ホルモン分泌が見られない良性腫瘍のことであり、ホルモンの分泌異常をきたすことはない。
- c) 腎不全に見られる副甲状腺機能亢進症は、続発性内分泌疾患の1つである。
- d) 多発性内分泌腺腫瘍のうち、MEN type I は下垂体腺腫、膵島腫瘍、副甲状腺腺腫または過形成を合併する。

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて正しい

48. 甲状腺疾患について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) 腺腫性甲状腺腫は良性の過形成性疾患で、甲状腺全体に結節が多発することが多い。
- b) 濾胞腺腫は甲状腺濾胞上皮に由来する良性腫瘍で、中年の女性に好発する。
- c) 髄様癌は甲状腺C細胞に由来する腫瘍で、免疫組織学的にインスリンの証明が診断に重要である。
- d) 未分化癌は甲状腺に発生する胚細胞性腫瘍で、化学療法への感受性が高い。

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて正しい

49. 副腎疾患について、正しい記述の組み合わせはどれか。

- a) 医原性Cushing症候群は、ステロイドの長期投与により生じ、両側の副腎皮質は萎縮性となる。
- b) 副腎皮質腺腫によるCushing症候群では、フィードバックにより下垂体ACTHは抑制される。
- c) 原発性アルドステロン症の原因としては医原性のものが最も多く、手術による副腎摘出が原因となる。
- d) 副腎腫瘍の多くは悪性で、腺腫より癌の頻度が高い。

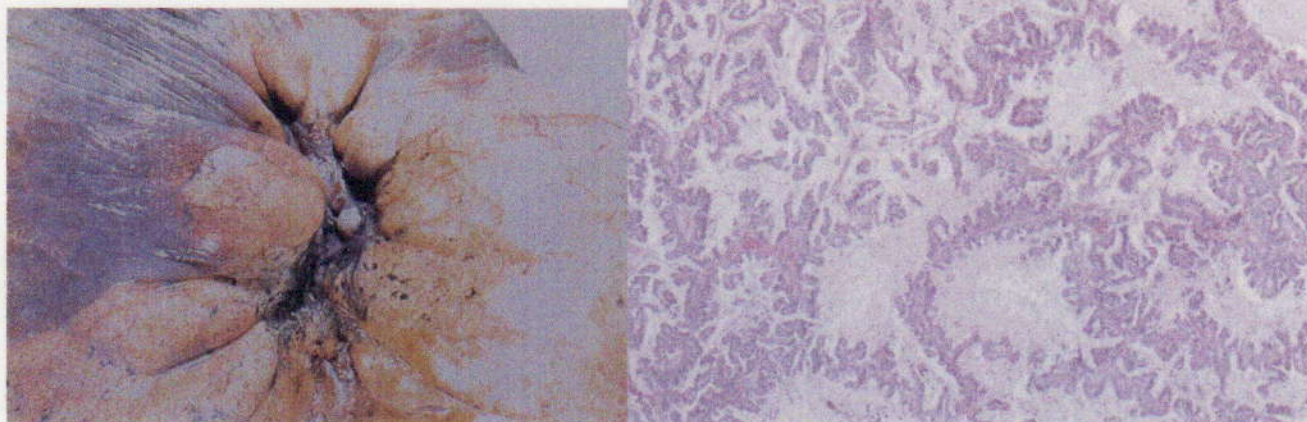
1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて正しい

50. 下垂体疾患について、正しい記述の組み合わせはどれか。

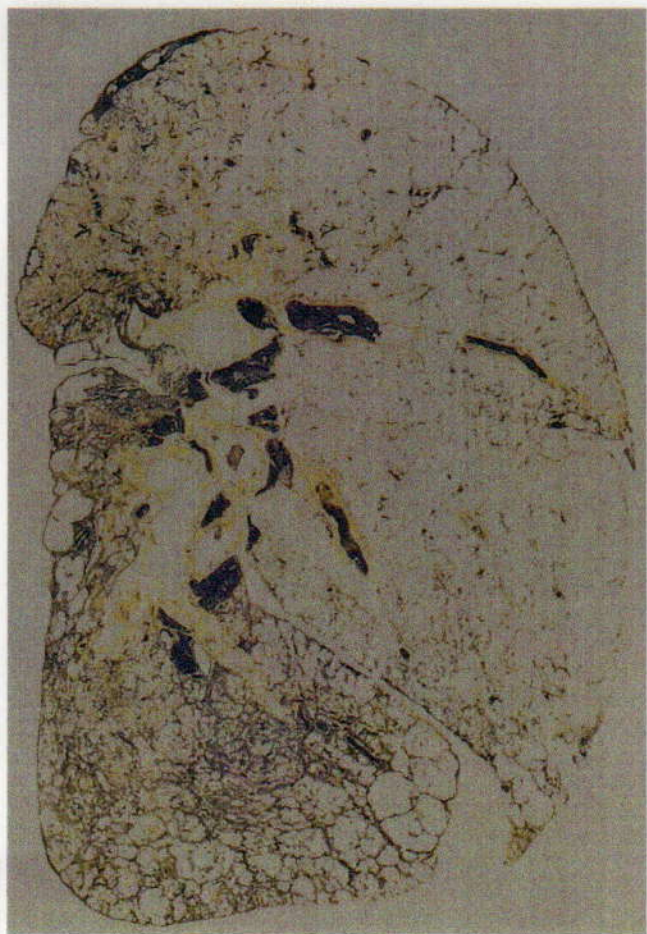
- a) 下垂体前葉に生じる腫瘍は大部分が良性の腺腫である。
- b) 下垂体後葉の機能低下症には尿崩症が挙げられる。
- c) 成長ホルモン産生腫瘍は末端肥大症、巨人症の原因となる。
- d) プロラクチン産生腫瘍は20～40歳の女性に多く発見され、乳汁分泌や無月経を主訴とする。

1) a, c, d 2) a, b 3) b, c 4) dのみ 5) すべて正しい

病理学問題カラー写真1



病理学問題カラー写真2



病理学問題カラー写真3

